

小山市事務事業評価シート

平成30年度版

No. 30

1. 基本情報							
＜1＞事業・業務名		農地耕作条件改善事業小山地区			＜2＞事業・業務の別		業務
＜3＞選定基準		③ 平成29～30年度総合計画実施計画の計上事業			＜4＞継続評価・新規評価の別		継続評価
＜5＞ 総合計画 基本計画 での体系	大項目	7 豊かな大地と伝統 めぐみをはぐむまちづくり			＜6＞担当部(局)		産業観光部
	中項目	7-1 田園環境の保全と農業の活性化			＜7＞担当所属		農村整備課
	小項目	7-1-1 農業・都市と農村交流・グリーンツーリズム			＜8＞担当係等		農道整備係
	施策	農地耕作条件改善事業小山地区					
＜9＞根拠法令・計画等		土地改良法		＜10＞関連・類似事業			
＜11＞会計		一般 会計		＜12＞予算科目			6 款 1 項 5 目
＜13＞実施期間		28 年度 ～ 30 年度		＜14＞全体事業費			152,000 千円
＜15＞実施手法		一部委託		「その他」の場合 ()			

2. Do - 実施 -									
＜16＞事業・業務の概要		担い手への農地集積の加速化や農業の高付加価値化の推進等により、競争力ある「攻めの農業」を展開し、意欲ある農業者が農業を継続できる環境を整える。							
目的	＜17＞事業・業務の目的	基盤整備を実施し耕作条件の改善を図ることにより、農地中間管理機構による担い手への農地の集積や集約化を推進するため実施するものです。							
	＜18＞事業・業務の対象	農道に隣接した圃場を有する受益者(農業者)等							
手段	＜19＞平成29年度の活動内容	総延長L=2,206m、幅員W=4.0mの農道2箇所を農林水産省農地耕作条件改善事業(国庫補助事業)により用地買収を実施した。							
	＜20＞活動指標(アウトプット)	指標名	単位	平成28年度		平成29年度			
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
		用地買収	m ²	666	666	3,346	3,346	100.0%	
成果	＜21＞事業・業務の成果	農業通作、流通体系の改善及び生産物の集出荷、生産資材の搬出搬入を円滑化し、農業経営の合理化を目指す。							
	＜22＞成果指標(アウトカム)	指標名	単位	平成28年度		平成29年度			
				計画	実績	計画	実績	達成率(%)	
		事業進捗率	%	38	38	69	69	100.0%	
コスト ～資源の投入量	＜23＞投入指標(インプット)	区分	単位	平成28年度		平成29年度			
				計画	実績	計画	実績	投入率(%)	
		コスト	千円	59,165	59,165	49,959	49,959	100.0%	
		事業費等	千円	57,000	57,000	47,800	47,800	100.0%	
		財源内訳	国・県補助金	千円	37,050	37,050	31,070	31,070	100.0%
			地方債	千円	1,400	1,400	12,500	12,500	100.0%
			その他	千円					
一般財源	千円	18,550	18,550	4,230	4,230	100.0%			
人件費	千円	2,165	2,165	2,159	2,159	100.0%			
	正職員	千円 × 人役	7,214 × 0.3	7,214 × 0.3	7,195 × 0.3	7,195 × 0.3			
	他の職員		×	×	×	×			

3. Check - 評価 -

実績評価	妥当性	<24> 目的・対象の 妥当性	1.妥当である	理由	国庫補助事業の採択・実施要件を満たし、要綱・要領に基づく事業であるため、改善の余地なしとした。
		<25> 手段や実施手法の 妥当性	1.妥当である		
	有効性	<26> 成果の向上余地	1.向上の余地なし	理由	土地改良法に基づく事業計画において、国が定めた費用対効果算定マニュアルに沿った効果が確認されているため、向上の余地なしとした。
	効率性	<27> 事業費や人件費の 削減余地	1.削減の余地なし	理由	コスト削減はすでに図られているため、改善の余地なしとした。
	公平性	<28> 受益者負担の 適正化余地	1.適正	理由	国・県の要領・要綱に基づき補助金が交付されていること、一般交通にも供されるため、特定の受益者から負担を取ることはなじまないことから、適正と判断した。
	<29>総合評価	1.改善の余地なし	理由	平成29年度は計画通りに事業が進み、残事業においても幅員・延長等、事業内容の変更はないため、改善の余地なしとした。	

4. Action - 改善 -

事業の改善	<30> 事業の課題 事業の改善点 今後の進め方等		平成30年度中に工事を完了出来る様、余裕をもった工期設定を行うなど、適正な工程管理を図る。		
事業の方向性	<31> 1次評価	所属長	3.現状維持	理由	平成30年度に工事を実施するため、適正な工程管理と効率的な事業進捗を図る。
	<32> 2次評価	所管部長	3.現状維持	理由	平成30年度の事業完了に向け効率的な事業進捗を図る。

5 Plan - 計画 -

事業の計画	<33>実施計画	平成30年度に工事完了させる。	<35>コスト	区分	単位	平成30年度	平成31年度
						計画	計画
				コスト	千円	49,359	0
	<34>活動・成果目標	平成30年度に工事完了させる。		事業費等	千円	47,200	0
			人件費	千円	2,159	0	